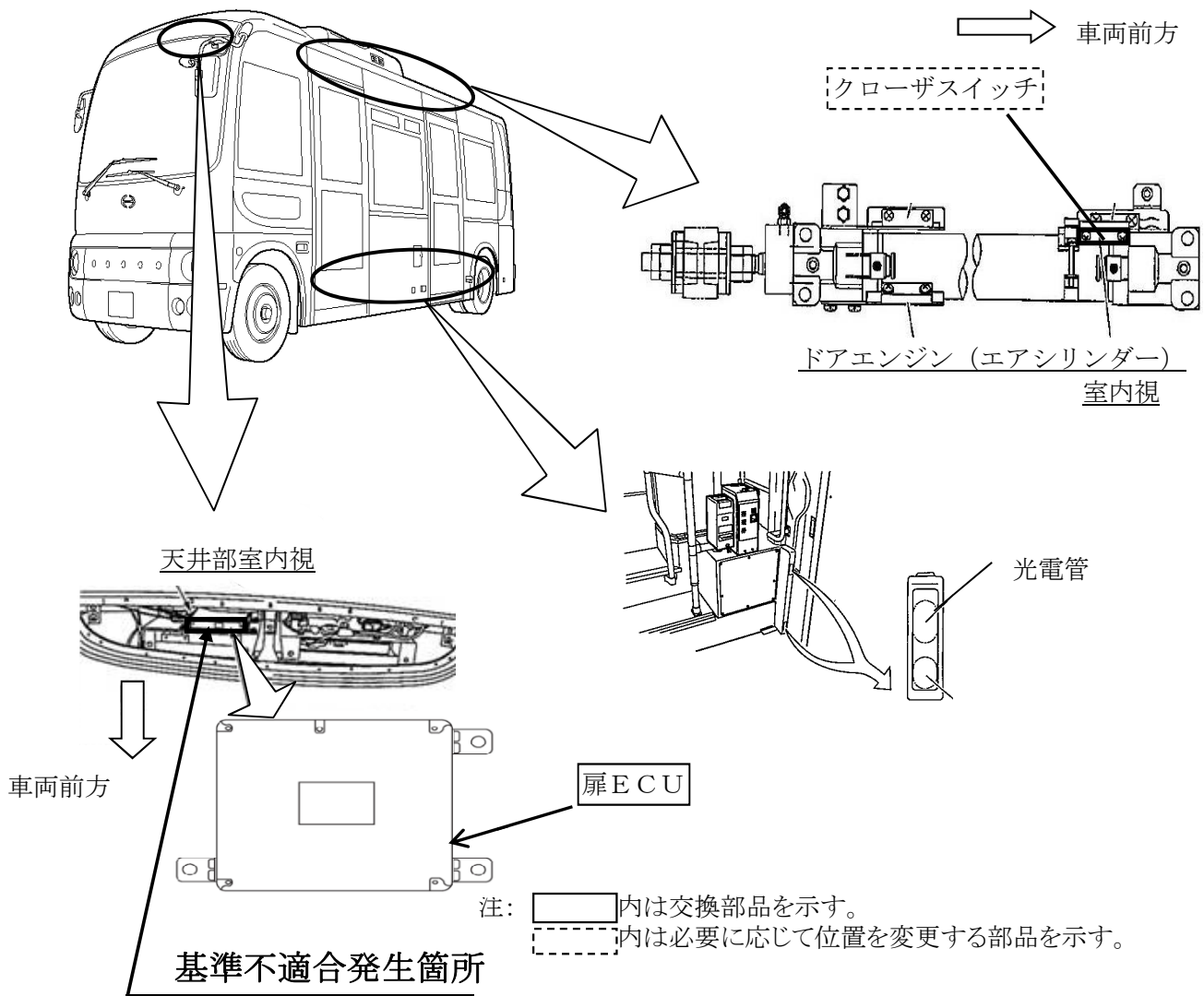


改善箇所説明図 ①②③



- ①乗降扉の開閉制御プログラムが不適切なため、以下の条件に当てはまる場合には、乗客が扉近傍に設置された検知器（光電管）を遮っているにも関わらず、乗降中の乗客が扉に挟まれることを防止する機構が働かず扉が閉まる。
 - ・乗客が検知器（光電管）を遮っている状態で、運転者が乗降扉を閉じる操作を行う（扉の閉動作を予告するブザーが鳴る）
 - ・次に、乗客が検知器を遮らない位置に移動する（ブザーが鳴り終わる）
 - ・その後、扉を閉める信号が出てから扉が閉まる動作を開始するまでの間において、乗客が検知器を遮る（このとき扉が閉まってしまう）
- ②乗降扉の開閉制御プログラムが不適切なため、走行状態から停止に至る過程において運転者が一定条件の操作（シフトの位置をNにし、停止直前で乗降扉を開く操作）をした場合においては、走行中に扉が開くことを防止する機能が働いたままになり、停止してから運転者が手元の開閉スイッチを開に操作しても扉が開かない。
- ③乗降扉の開閉制御プログラムが不適切なため、また、乗降扉が閉まる直前で扉を車内に引き込みロックする機構（クローザ）を働かせるために備えられた、扉が閉まる直前の位置を検知するセンサーに製造バラツキがあるため、当該センサーによる検知がなされない場合において、クローザが働かず確実に扉をロックできず、走行中に乗客が扉近傍に設置された検知器（光電管）を遮った際に扉が開く。

改善の内容

全車両、当該ECUを対策品と交換する。また、クローザスイッチの位置を点検し、不適切なものは位置を変更する。

識別：ネームプレートに白色ペイントを塗布する。